

「平成 29 年度 保育セミナー」 報告書



【期 日】 平成 30 年 2 月 11 日 (日)
【会 場】 佐賀市文化交流プラザ交流センター
エスプラッツホール

【主 催】 佐賀県保育会

【参加者数】 115 名

【内 容】 ・あいさつ 13:40~14:00
指山 健次郎 氏 (佐賀県保育会 会長)

・研修① 14:00~16:00
『絵本の力、絵本の魅力
～自然の歌をききながら～』
講師 村上 康成 氏 (絵本作家)



研修①『絵本の力、絵本の魅力 ～自然の歌をききながら～』
講師 村上 康成 氏 (絵本作家)



《絵本を実際に読んで頂き、トークを交えながらの紹介》

『しろいちょうちょがとんでるよ』

・初めての赤ちゃん絵本

『ピンク、ぺっこん』

・デビュー作
・ヤマメがテーマ

『はるのごほうび』

『きぜつライオン』

・白い余白の部分が多いが、見えない何かを想像しながら読んでほしい絵本
(春の風や光など)



『999 ひきのきょうだいのおひっこし』

・2012 ドイツ児童文学賞ノミネート

『しあわせならてをたたこう』

・うたいながら子どもと楽しめる絵本



『おおきくなったらきみはなんになる?』

・みんなでみるよりも、自分でめくって実感する絵本。

『母ぐま子ぐま』

・もともとある児童文学を絵本構成したもの

『イルカの風』

～♪ウクレレにのせて～

- *絵本には子どもだけではなく、様々な世代を引き付ける力がある。
- *絵本は、楽しませてもらうのではなく、自分で楽しむのが魅力である。
- *基礎体力(＝目で見て得る情報ではなく、実際に体験してきたことなどの体で感じる自然の力)を培うことが大切。つまり、自然を通して得られるものを大切に
する。
- *描かれていないことも、基礎体力を生かして読むことで話にひろがり生まれる。



(報告)

絵本は、読む人それぞれで感じ方が違うが、その感性を育てるのは子どもの頃からの基礎体力作りであり、そこに関わる周囲の大人の関わりがとても重要であるということが改めて分かった。

子どもたちが実際の体験を通して得る、豊かな想像力を備えられるような関わりを持つことが大切であると感じた。

(文責：旭ヶ岡保育園 淵祐美子)